

# ヴェリタス学習会通信 83

予定表カレンダー →



## 令和6年2月の予定

- ・月曜日 2月5・12・19・26日 大安公民館1階研修室 18:30～21:00
  - ・水曜日 2月7・14・21・28日 ヴェリタス事務局 18:30～21:00
  - ・木曜日 2月1・8・15・22・29日 員弁老人福祉センター1階会議室3 18:00～20:30
  - ・金曜日 2月2・9・16日 北勢市民会館1階リハーサル室 18:30～21:00
- 23日 ヴェリタス事務局 18:30～21:00**



藤原文化センターは休止中です。水曜日はヴェリタス事務局で開会しています。

**23日（金）**は、北勢市民会館の先約があったので**ヴェリタスの事務局**で行います。

ヴェリタス事務局の所在地は、**511-0261** いなべ市大安町丹生川上 **650-1** です。

積雪や路面凍結の恐れがある場合、休会連絡を行います。不安な場合はお問い合わせください。

## 連絡先

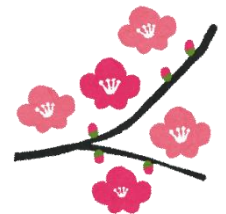
ヴェリタス学習会担当まつみやの携帯電話番号：090-7696-0189（+メッセージも可能）

メールアドレス：[npoveritas@gmail.com](mailto:npoveritas@gmail.com)

LINE ID：m9s0bay（4文字目は数字のゼロです）

Facebookの「松宮 卓」に友達申請していただければ**Messenger**が使えます。

メールや**LINE**登録をしていただいた方には、それを利用して休会連絡を行います。手数削減協力のため、できる限りご登録ください。**LINE**を利用して、宿題等の画像を送ってくる子もいます。自分でできるところまでやって送ってもらうと、効果的な返信ができます。



## Zoomなどの会議ツールを利用しませんか



今後、さらに利用が広がる**Zoom**クラウドミーティングや**Skype**、**Facetime**、**Google Meet**などを利用して学習しませんか。興味のある方は、ご相談ください。

## 大河ドラマ『光る君へ』と源氏物語

今年のNHK大河ドラマは『光る君へ』。『源氏物語』を書いた平安時代の<sup>むらさきしきぶ</sup>紫式部が主人公です。源氏物語の5分の4で主人公になっているのが「光源氏」。大河の題名は、この光源氏から来ていると思われます。



「源」は、皇籍（天皇の一族）から離れた天皇の子孫に与えられる姓です。<sup>みなもとのたかあきら</sup>源高明、<sup>みなもとのとおる</sup>源融、<sup>みなもとのまこと</sup>源信など、モデルと思われる人がいます。いずれも藤原氏との権力争いに巻き込まれ、大変な一生でした。源氏物語の光源氏も都を離れる不遇の時期を過ごしています。

ただ、大河ドラマの「光る君」は、<sup>ふじわらのみちなが</sup>藤原道長のことではないかと考えられます。今までの放送分では、紫式部と藤原道長は幼い頃に出会って、成人してから再会する場面が描かれています。

## 藤原氏と摂関政治

藤原道長と言えば、<sup>せつかん</sup>摂関政治です。娘を天皇の<sup>きさき</sup>后にして、その子を天皇にし、自身が摂政・関白となり政治を行うのが摂関政治です。道長は4人の娘を天皇の后にして、生まれた子（道長にとっては孫）を次々と天皇にします。天皇は、自分の意見が言えるようになる前に交代させられます。

## 紫式部と清少納言

天皇のお后は何人もいます（正式には后という呼び名を使えるのは1人）。平安時代に多数の中から天皇に選んでもらうには、教養が大切なのです。お后やお后候補に優秀な家庭教師をつけないとダメです。道長が娘の家庭教師に選んだのが紫式部だったのです。

道長の兄の<sup>みちたか</sup>道隆の娘の<sup>ていし</sup>定子は、一条天皇の后でした。その家庭教師役が<sup>せいしょうなごん</sup>清少納言です。「春はあけぼの……」の『<sup>まくらのそうし</sup>枕草子』を書いた人物ですね。道長は自分の娘の<sup>しやうし</sup>彰子も一条天皇の后にします。彰子の家庭教師役を紫式部に頼みました。このことから、紫式部と清少納言はライバルであったと考える人が多くいます。『紫式部日記』の中で、紫式部は清少納言を「得意顔をして偉そうにしている人で、将来幸せになれるでしょうか（、なれないと思いますよ）」と評しています。



## 源氏物語は長編小説 枕草子は随筆集

清少納言の枕草子は、彼女の考えがストレートに表されている随筆で、彼女の明るく活発な性格や、頭の回転の速さが感じられます。三百ほどの章段があり、一段単位でも読めるので、できれば古文も書いてあるものを読んでみてはどうでしょうか。



紫式部の源氏物語は、全体的に暗いトーンの世界ですが、人間の心情を丁寧に描き、深みがあります。怨霊におびえる平安人の様子や、幸、不幸のめぐりや行いに応じた報いなどが描かれています。私も完読はしていませんが、54帖のうちいくつかは現代語訳で読みました。マンガ本でもいくつか出ているので、読んでみましょう。

## 紫式部が仕えた彰子の子2人は天皇に

紫式部のおかげか、教養を身に着けた彰子は、一条天皇との間に、のちの後一条天皇・後朱雀天皇をもうけます。

清少納言が仕えた定子も教養のある人物で、一条天皇に愛されました。政治的な差し障りがある中でも1親王、2内親王をもうけています。

紫式部と清少納言が同時に宮中にいた期間は、あっても短かったのですが、女性がこの時代の文学の大きな担い手であったのは確かです。

